

地方の人口減少と若者の人口移動

氏名 渡辺 尚行

要旨

課題設定として、筆者は群馬県片品村で生まれ育ち、過疎化や人口流出がといった現状を身近に感じてきたことから、卒論ではその問題に対し、原因となる人々の行動原理の観点到に触れていきたい。この問題に触れたのは、昔からの地元への想いがあり、一度地元を離れたことで想いは増し、地元に戻って生涯安心して暮らすためにできることはないか。そこで、大学で学んだ調査や統計を通し、人口流出の原因の一つとして若年層の人口移動はどのような行動原理によって起こっているかを明らかにし、地方にある社会問題解決に少しでも近づく手掛かりにしていきたい。

先行研究としては、伊豆田義人 [2019]、伊豆田義人・中川恵・西川友子・佐藤佑香 [2016]、片岡佳美 [2020] の3つを参照し、調査等の参考にした。

質問の意図と仮説は、主に4つの仮説を立て、それに対応する質問を作成した。第一仮説は、地元を離れて生活したことがある人は多いとした。これに対応する質問を1つとした。第二仮説は、地元を離れて生活をすると、地元に戻らないまま生活をする人が多いとした。これに対応する質問を4つとした。第三仮説は、地元を離れて生活をしなければならぬことには、進学や就職が関係しているとした。これに対応する質問を5つとした。第四仮説は、人々は生活の豊かさを求めて、地元へ戻ってくるとした。これに対応する質問を5つとした。属性の質問は性別・年齢・出身地方・居住形態の4つとし、全て合わせて19質問を作成し、アンケート調査を行った。

調査の結果から、先に立てた仮説について検証し、分析を行った。第一仮説と第二仮説においては、調査の結果から、第一仮説は仮説通りとはならず、第二仮説は仮説通りの結果となった。第三仮説と第四仮説は、質問結果の組み合わせをそれぞれ仮説に合わせて作成したものをカイ2乗検定による検証とし、分析を行った。その結果第三仮説・第四仮説ともに仮説通りの結果となった。

結論として、主に立てた4つの仮説と調査による結果・分析から、明らかになったのは、進学や就職が主なきっかけとして地元を離れることが多く、そのまま戻らずに生活をする人が多いことであった。ここから、地方の人口流出や若年層の人口移動が起こっていることが言える。また、そのまま戻らずに生活をする人が多いことは、人それぞれの理由があり、それらが地方の若年層の人口流出・減少に繋がっているとも言える。この問題の解決には、進学後に戻ってくる要因を地方におくことが考えられる。調査結果より、生活の豊かさを地方により感じられるものがあれば、解決に少しでも近づけるのではと考える。筆者は、大学卒業後、地元へ就職し、地元へ貢献するつもりであり、この卒論を生かして、問題を少しでも解決できる取り組みをしていきたい。